



ID: 1367

科目名	CSR論【26年度生用】			コード			
英語表記	Concept of CSR and Current Situation in Japan						
担当教員名	高橋 憲夫			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態			
授業概要							
CSR(企業の社会的責任)は、現代社会だけでなく、企業と社会との関係はいつの時代にもあった。利潤と倫理性の調和は可能か。矛盾する時には、どちらを優先するのか。これらの根本問題について、CSRに関する知識は教えるが、それは会社に入ってから、自分で考えるための、手がかりに過ぎない。この意味で、この講義は、実情を「考え」「書く」ことを取り入れたものにする。受講生の状況を見ながら、題材を変え、やりかたを改善しながら進めるつもりである。							
到達目標							
この種の講義は、自分で考えることが大切である。さまざまな企業倫理の事例を、ただ学ぶだけでなく、そこにひそむ倫理性を自分の頭で考えなければ、この講義を受けたことにはならない。倫理に絶対的な答えがあるのではなく、社会がそれを受け入れることができるか否かに、その考えの成否がかかっている。企業倫理の事例の分析の仕方が、少しでも深くなれば、一応の目標に到達したことになる。							
授業計画							
第1回	講義の内容、方法、成績の付け方などの説明。簡単なテーマで講義してみる。						
第2回	CSRとは何か。CSRが含む諸問題(1)。						
第3回	論文練習						
第4回	CSRが含む諸問題(2)。						
第5回	コーポレート・ガバナンスについて。						
第6回	論文練習。						
第7回	モラルハザードとコンプライアンス。						
第8回	ステイクホルダーとストックホルダー。						
第9回	論文練習。						
第10回	株主代表訴訟、リスクマネジメント。						
第11回	公益通報(内部告発)への賛否。						
第12回	論文練習。						
第13回	企業不祥事とマニュアル。						
第14回	国による経営倫理の違いについて。						
第15回	試験練習						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
出席、講義中の態度、試験の成績などを考慮してつける。試験だけではつけない。右の%は一応の目安である。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				30	20	50	
授業外学習			テキスト、教材				
ときどき思想的な論文を読んでくることを、宿題とする予定である。			とくになし				
参考書			受講生へのメッセージ				
受講生と話し合いながら決める。			講義は、分かりやすく、面白く、ためになることを目標に行なうので、受講生はまじめに講義に臨むことを期待する。				
キーワード							
企業。倫理。コンプライアンス。コーポレート・ガバナンス。							